

インターバンクの声（2016年5月25日）

昨日、東京市場のドル円は、前日に複数の米地区連銀総裁が年内複数回の利上げがある可能性を示唆したものの、ほぼ一日中109円中盤を上抜け出来ないままの取引が続いた。東京市場の夕方近く、昨日の安値となる109円10銭台まで下げていたが、ロンドン市場の早朝以降は目立った反落もないままニューヨーク市場の後半には110円台を回復した。米連邦準備制度理事会（FRB）の6月か7月の利上げには、海外勢の中にも懐疑的な人も多かったはずだが、独株を中心とした欧州株の全面高や原油相場の反発を背景にして急速にリスク選好が強まったためだ。その後のニューヨーク市場でも、4月の新築一戸建て住宅販売が驚くような高水準に達し、ニューヨーク・ダウも大幅に反発したままの状態を維持出来たこともドル堅調を保った。ただ、足許の110円ちょうどから110円台中盤の水準は先週の後半でも上抜け出来なかったため、今日も簡単にはトライ出来ないだろう。週末のイエレンFRB議長のハーバード大学討論会での発言も注目されるが、よくある議長の「どんでん返し発言」があるとなれば、雇用統計後の6月6日の講演になる可能性が高い。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複製もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。